



日耳鼻医会 FAXニュース

平成29年7月4日発行 第252号

◎定時都道府県代議員会・総会開催される 9月18日に臨時総会予定

6月25日午後1時よりベルサール八重洲で定時都道府県代議員会及び総会が開催された。

物故者への黙祷の後、伊東理事長が、「前年の総会の後大きな動きがあり、日耳鼻学会の呼びかけに応じて改めて全国組織の耳鼻科医会設立に向けて協力しており、来年7月には新組織が発足する予定になっている。それにあわせて平成29年度の事業計画案、予算案などそれを念頭に上程しているので、そこを理解の上、審議して頂きたい」と挨拶した。

平成28年度の庶務報告事業報告の後議事に入り、上程された4議案は承認可決された。なお第3号議案では会費について審議され、前年度の繰り越し金で今年度の事業を賄うことが可能なので会費徴収は行わない事が承認可決された。代議員会はこれで終了、直ちに総会に移り、上記議案が一括上程され承認可決され、総会も終了した。

第42回臨床家フォーラムの案内の後、議事「その他」で伊東理事長が、昨年6月の総会後の、全国組織の耳鼻科医会設立に向けての動きを詳細に説明、さらに、中澤副理事長より、来年6月迄に様々な手続きを完了するために、9月18日(月・祝)に平成29年度第1回医会長協議会ならびに臨時総会を開く予定であること、また諸手続きが完了した時に法令で再度臨時総会を開かないといけなると定められているようだとの説明があった。

総会終了後、久留米大学特命教授で元・厚生省健康局長・保険局医療課長の佐藤敏信先生が「どうなる？2017年の医療と社会保障—激動の2016年を振り返って」と題しての講演があり、活発な質疑応答もなされた。講演の概要は会誌「かがみ」に掲載予定。

講演の後、懇親会が開催され、坂口文雄東京都耳鼻

科医会会長が50周年記念式典並びに第42回臨床家フォーラムへの参加を呼びかけた。

■全国的な医会組織設立の今後のスケジュール

- 9月17日 第1回全国耳鼻咽喉科医会連絡協議会開催
- 9月18日 日耳鼻医会臨時代議員会および臨時総会
- 11月12日 第2回全国耳鼻咽喉科医会連絡協議会開催
- 平成30年
- 1月28日 第3回全国耳鼻咽喉科医会連絡協議会開催
- 5月30日 第119回日耳鼻総会/学会・医会長協議会にて説明、承認
- 7月1日 第1回全国耳鼻咽喉科医会(仮称)設立総会開催

◎第42回臨床家フォーラム記念公開講演

日時:7月16日(日) 午前11時50分~午後1時
 会場:日経ホール(千代田区大手町1-3-7日経ビル)
 講演:「耳鼻咽喉科と地域医療体制」
 釜范敏先生(日本医師会常任理事)
 (講演会終了後懇親会、日経ホール6階)

◎東京都耳鼻咽喉科医会学術集会講習会

(第42回臨床家フォーラム記念公開講演の前に行います)
 日時:7月16日(日)午前9時~午前11時30分
 会場:日経ホール(千代田区大手町1-3-7日経ビル)
 *「アレルギー診療に対する安全対策」(共通講習)
 大久保公裕先生(日本医科大学教授)
 *「慢性感音難聴診療の最前線」(領域講習)
 小川 郁先生(慶應義塾大学教授)
 参加登録申込み締切 7月7日です。

■期待の帯状疱疹治療薬が登場間近

腎臓への負担が少なく高齢者にも使いやすいと目される帯状疱疹治療薬アメナメビルが今秋にも登場しそう。

2014年10月の水痘ワクチンの定期接種化で水痘患者が減少し、帯状疱疹患者が増える可能性があり、ここ数年、帯状疱疹は患者の急増が危惧されてきた。

アメナメビルは、帯状疱疹をターゲットとする日本発の抗ウイルス薬。従来から帯状疱疹治療に使用されているバラシクロビルなどの抗ウイルス薬は腎排泄が主で、腎機能に応じて投与量や投与間隔を調整する必要がある。また、腎臓で濃縮されると結晶化して急性腎不全を起こす恐れがあるため、患者には積極的な水分補給を指導す

る必要もある。これに対しアメナメビルは主に肝臓で代謝されるため、腎機能に応じた用量調整が不要となる。アメナメビルが登場すれば、腎機能が低下していることが多い高齢者にも使いやすい治療薬となると期待されている。

■国民皆保険による医療 医師の半数「持続不能」

現在の国民皆保険について、医師の半数が「維持できない」と考えていることが日経新聞社などが実施したアンケート調査で分かった。約10万人が登録する医師向け情報サイト「ドクターズ」を運営するメドピアの協力を得てインターネットを通じて実施。1030人の医師から回答を得た。回答者は勤務医81%、開業医19%。

「現状の皆保険制度に基づく医療は今後も持続可能と思うか」では「そうは思わない」が52%に達した。その理由として「高齢者の医療費が増大しすぎている」「医療が高度化して薬剤などが高額になっている」などのコメントが目立った。持続可能と答えた医師も「患者負担の増加が必要」「消費税があれば」など持続するための条件を付けていた。日本医師会は「皆保険を維持するため、国は増える医療費に対応できる財源を確保すべき」とする。

一方「過剰診療も大きな問題。医師の意識改革も必要」とする意見もあった。

明日をもっとすこやかに
meiji
 経口用カルバペネム系抗生物質製剤 薬価標準収載
 処方せん医薬品
 小児用細粒
オラペネム®小児用細粒10%
ORAPENEM® FINE GRANULES 10% FOR PEDIATRIC
 注)注意—医師等の処方せんにより使用すること 略号 TBPm-Pi
 ※「効能・効果」、「用法・用量」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌・原則禁忌を含む使用上の注意」等、詳細は製品添付文書をご参照ください。
 製造販売元
Meiji Seika ファルマ株式会社
 東京都中央区京橋 2-4-16
<http://www.meiji-seika-pharma.co.jp/>
 <製剤開発センター>
 Meiji Seika ファルマ株式会社 小児科薬部
 〒104-8002 東京都中央区京橋 2-4-16
 電話(0120)093-396、(03)5279-3539
 作成:2013.5

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会
 〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F
 TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228
 HP:<http://www.jenti.or.jp> E-mail jimu@jenti.or.jp